

長期予報（6～8月）に対応した農作物技術対策

令和4（2022）年6月10日
上都賀農業振興事務所経営普及部
上都賀地域農業気象災害対策協議会

気象庁の3か月予報（5月24日発表）及び1か月予報（6月9日発表）によると6月の平均気温は平年並～高い、降水量は平年並～多い予想となっています。

関東甲信地方の梅雨入りは6月6日頃（平年差-1日、前年差-8日）で、当面は梅雨らしい天気が続く予報となっています。この間、寒暖の変化や多雨・少日照などの影響が懸念されるので、農作物の管理にあたっては次の技術を徹底するよう指導願います。

なお、病害虫等の防除に農薬を使用する場合には、使用基準を遵守するよう指導願います。

[参考]

- 関東甲信地方1か月予報（令和4年6月9日 気象庁発表）

https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=090000&term=1month

- 関東甲信地方3か月予報（令和4年5月24日 気象庁発表）

https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=090000&term=3month

- 令和4年の梅雨入り梅雨明け（速報値）（令和4年6月6日 気象庁発表）

https://www.data.jma.go.jp/cpd/baiu/sokuhou_baiu.html

I 普通作物

1 水稲

- (1) 葉いもちが発生しやすい条件の日が続くので、予防粒剤を施用している場合でもほ場をよく観察し発生が認められた場合は、治療と予防効果のある殺菌剤を散布する。
- (2) 特に、葉色が濃いほ場や水温の低い用水を利用している場合は、いもち病発生確率が高くなるので粒剤等で予防的に防除する。

[参考]

- BLASTAMによる葉いもち感染好適条件判定結果(令和4年度)（令和4年6月8日 栃木県農業環境指導センター） <http://www.jppn.ne.jp/tochigi/file/data/Blastam/2022.htm>

- 植物防疫速報 No. 4（イネ縞葉枯病(第一世代幼虫)）（令和4年6月8日 栃木県農業環境指導センター） <http://www.jppn.ne.jp/tochigi/file/yosatu/2022/sokuhou/2022sokuhou4.pdf>

2 大豆

- (1) 排水溝を整備する等、排水対策を徹底して、立枯性病害の発生を予防する。
- (2) 断続的な降雨により播種作業が遅れているほ場については、土壌が乾くのを待って播種作業を進める。なお、播種直後に強雨が想定される場合は播種を見送る。また、畦立て播種を行い、出芽率の向上に努める。

3 こんにゃく

- (1) 排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。

II 野菜

1 野菜全般

- (1) 湿害をさけるため、ほ場周辺に排水溝や明渠を掘って、ほ場内が浸水・滞水しないようにする。

- (2) 曇雨天時の葉かきや芽かき等は極力控え、これらの管理は晴天時の午前中に行い、夕方には傷口が乾くようにする。
- (3) 曇雨天日が長く続くと茎葉が徒長気味となり、生理的落果や病害多発の原因となりやすいため、古葉は早めに取り、風通しと日当たりを良くする。
- (4) 殺菌剤の予防散布を徹底するとともに、かん水や追肥は多量に行わず、1回当たりの量を少なくして回数を多くする。
- (5) きゅうり・なす・トマト等は小果（S～Mクラス）で収穫し、株の着果負担を軽くする。

2 施設野菜全般

- (1) 軟弱徒長気味の生育となるため、ハウス屋根被覆の汚れを落とすなどして、採光を高める。また、曇天時は遮光資材を解放して、できる限り光線を当てるようにする。ただし、曇雨天後の強日射は軟弱に生長した植物体に高温障害、蒸散過多による萎れ等を引きおこすことがあるので、寒冷紗による遮光等、強日射・高温への対策を併せて準備しておく。
- (2) 灰色かび病等の病害が発生しやすい条件となるため、殺菌剤の予防散布を徹底するとともに、十分な換気を行い施設内の通風を図る。また、循環扇の活用により湿度低下に努める。

[参 考]

- 病害虫発生予報第2号(5月下旬～6月下旬)(令和4年5月20日 栃木県農業環境指導センター)
<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/file/yosatu/2022/yohou/yohou202205.pdf>

3 いちご

- (1) 採苗・仮植に苗が活着した後は、遮光資材を解放するとともに、定期的な葉かきやポット等の間隔を広げる等の管理により、積極的に日光に当て株の充実を図る。ただし、曇雨天後の強日射は高温障害、蒸散過多による萎れ等を引きおこすことがあるので、遮光資材の活用等、強日射・高温への対策を併せて準備しておく。
- (2) 追肥は多肥とならないよう生育に応じて行う。
- (3) 炭疽病、うどんこ病の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。特に炭疽病は高温多湿環境で苗が濡れている時間が長いほど発病しやすい傾向があるので、夕方には地上部が乾いた状態になるようかん水時間を調整する。

[参 考]

- いちご病害虫情報第12号(総集編)(令和4年5月20日 栃木県農業環境指導センター)
<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/file/yosatu/2021/ichigo/ichigo202205.pdf>

4 夏秋なす

- (1) 全面マルチ栽培では、マルチ上への滞水を防止する。
- (2) 花や果実に光が当たるように整枝や葉かきを行う。
- (3) 菌核病、灰色かび病の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

5 にら

- (1) 白絹病、軟腐病の発生を未然に防止するため、排水対策を徹底するとともに、殺菌剤の予防散布を徹底する。

6 雨よけトマト

- (1) 草勢維持のため、不良果の摘果を行い株の着果負担を軽くする。
- (2) かん水は1回当たり多量に行わず、天候をみながら回数を多くする。
- (3) 灰色かび病、疫病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

7 夏秋きゅうり

- (1) きゅうりは浅根性で、滞水すると根が酸素不足になり生育が抑制されるので、特に排水対策を徹底する。
- (2) 花への採光性を良くし風通りを良くするため、側枝かきや葉かきは早めに実施する。
- (3) うどんこ病、べと病、灰色かび病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

8 ねぎ

- (1) 植付け溝への滞水を防止するため、排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。
- (2) 土入れ・土寄せは、土が降雨後の加湿状態で行わない。
- (3) ベと病、黒斑病、さび病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

9 かぼちゃ

- (1) 排水溝を整備する等、排水対策を徹底する。
- (2) 軟腐細菌病、灰色かび病等の発生を未然に防止するため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

Ⅲ 果樹

1 果樹全般

- (1) 湿害をさけるために果樹園に排水溝や明渠を掘って、園内が滞水しないようにする。また、草生園では草丈を長めに管理し、土壤水分の蒸散を促す。
- (2) 傾斜地では、土壤の流亡を避けるために、草生栽培とし、当面耕運はしない。
- (3) 病害防除のため薬剤散布を行う際は、防除基準の遵守やドリフト低減に努める。

[参 考]

- 植物防疫速報No. 2 (クビアカツヤカミキリ) (令和4年5月20日 栃木県農業環境指導センター)
<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/file/yosatu/2022/sokuhou/2022sokuhou2.pdf>

2 なし

- (1) 果実肥大状況等をよく確認し、極端な小玉果、変形果および障害果等を中心に摘果する。
- (2) 予備枝から発生した新梢を1～2本に整理する。また、混み合っている部分の新梢は数本取り除く。
- (3) 黒星病の罹病葉及び果実は見つけ次第摘み取り、ほ場外に持ち出し処分する。薬剤による防除は雨前防除を基本とし、散布間隔が開きすぎないようにする。

3 ぶどう

- (1) 露地栽培では、摘粒終了後速やかに袋かけを行う。
- (2) 灰色かび病、べと病、晩腐病の発生が懸念されるので、発生状況に応じた薬剤防除を行う。

4 りんご

- (1) 果実肥大状況等をよく観察しながら着果管理を行う。
- (2) 斑点落葉病、褐斑病等の発生が懸念されるので、予防防除を基本とし、発生状況に応じた薬剤防除を行う。

Ⅳ 花き

1 花き全般

- (1) 日照不足により軟弱徒長になり、品質の低下と灰色かび病等の発生を助長するので、晴天時以外の遮光等は取り除いてできる限り日照を確保するとともに、施設内の通気等を図り湿度を下げるように努める。

2 きく

- (1) 露地ぎくは、ほ場周囲に排水溝を整備し、排水に努める。
- (2) 露地ぎくは黒斑病、褐斑病等が発生しやすいため、殺菌剤の予防散布を徹底する。
- (3) 施設ぎくは、白さび病が発生しやすいため、殺菌剤の予防散布に努めるとともに、病葉の摘除を行う等発生しにくい環境にする。

3 ばら

- (1) ベト病が発生しやすいため、湿度を下げるなど環境を整える。また、殺菌剤の予防散布を徹底する。
- (2) うどんこ病が発生しやすいため、窒素肥料の多用を避ける。枯れ葉を整理し、通風を良くするとともに、殺菌剤の予防散布を徹底する。

4 りんどう

- (1) ほ場周辺に排水溝を整備し、排水に努める。
- (2) 定植1年目の苗は葉枯病が発生しやすいため、降雨後に殺菌剤を散布する。
- (3) 花および茎に菌核病が発生しやすいため、殺菌剤の予防散布を徹底する。

5 シクラメン

- (1) 葉腐細菌病や萎凋病等が発生しやすくなるので、肥培管理を適正にし、病害の発生しにくい栽培管理に努める。

V 飼料作物

1 飼料用とうもろこし、牧草

- (1) 湿害が心配されるほ場では、排水溝を整備する等排水対策を徹底する。

VI その他

1 農薬危害防止運動令和4(2022)年度栃木県農薬危害防止運動の実施について

- (1) 農薬に対する正しい知識を広く普及し、農薬による事故並びに農薬の不適正な使用及び販売を防止するため、農薬危害防止運動を実施中。
 - ・実施期間：令和4(2022)年6月1日から8月31日の3か月間及び11月1日から令和5(2023)年1月31日の3か月間の合計6か月間
 - ・重点実施事項：農薬適正使用・管理の徹底 他

～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- ・安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ・いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- ・農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！

[参 考]

- 令和4(2022)年度栃木県農薬危害防止運動の実施について（令和4年5月13日 経営技術課）
<https://b2b-ch.infomart.co.jp/news/detail.page?IMNEWS1=3271286>
- 令和4(2022)年度栃木県農薬危害防止運動実施要領（PDF：226KB）
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/houdou/documents/20220512093314.pdf>

- 農薬ラベルの読み上げ運動について (PDF : 766KB)
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/houdou/documents/20220512093355.pdf>
- 生産者の皆様へ (PDF : 334KB)
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/houdou/documents/20220512093419.pdf>
- 農薬販売者の皆様へ (PDF : 335KB)
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/houdou/documents/20220512093439.pdf>

3 健康管理・感染症感染拡大防止

- (1) 新型コロナウイルス感染症に対する栃木県の警戒度は「警戒度レベル2 (警戒を強化すべきレベル)」。引き続き、健康管理に留意し感染拡大防止に努める。

[参 考]

- 警戒度レベル2【警戒を強化すべきレベル】における対応について (令和4年5月27日 栃木県)
https://www.pref.tochigi.lg.jp/e04/welfare/hoken-eisei/kansen/hp/keikaidoreberu2_kan_senkakudaiki.html

4 農作業事故防止

- (1) 農作業事故防止、特に農業用機械使用時の事故防止に万全を期す。

4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

乗用型トラクターの事故が最も多く発生しています！以下のことを心がけましょう。



- ・安全キャブ・フレームのある機種を使用する
- ・シートベルトとヘルメットを着用する
- ・ほ場を出る際は、ブレーキの連結ロックを確認する
- ・日没前の作業終了と、一般道走行に備え反射材を装着、点検する

5 農業共済への加入

- (1) 気象変動に伴う極端な気象現象が増加し、農業災害発生リスクが高まっている。もしものときの備えに、収入保険や各種共済への加入を勧める。

[参 考]

- 農業共済HP (全国農業共済協会)
<http://www.nosai.or.jp/>
 - 栃木県農業共済組合HP
<https://www.nosai-tochigi.or.jp/>
 - (2) 気象情報や技術対策など有用な情報を得られる、栃木農業防災メールの登録を勧める。
- [参 考]
- 「とちぎ農業防災メール配信のお知らせ」(栃木県農政部経営技術課)
https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kisyousaigai/documents/bousaimail_pr.pdf

6 「とちぎの気候変動 今と未来」について

- (1) 令和3(2021)年度に実施した栃木県第二次気候変動影響評価の調査結果について、パンフレット「とちぎの気候変動 今と未来」を取りまとめた。

[参 考]

- パンフレット全体 (PDF : 3,100KB) (栃木県気候変動対策課)
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/documents/20220428114436.pdf>